



## ロスタイム

W杯予選を勝ち抜いたサッカー日本代表が、コンフェデ杯ではなかなか世界トップとの差を埋められません。この1年でどこまで追いつけるかに期待しましょう。ところで、今では予選は勝てて当たり前という感じですが、かつて「ドーハの悲劇」と呼ばれる試合でW杯出場を逃したことがありました。深夜の中継をリアルタイムで見えていましたが、あのロスタイムでの失点は今でも覚えています。

さて、このロスタイムという言葉が最近のサッカー中継では使われなくなってきています。代わってアディショナルタイムという用語に統一されています。そもそもロスタイムは野球のナイター（本来はナイトゲーム）などと同様に日本人が勝手に作った和製英語ですから使われなくなって当然かもしれません。しかし、「失われた時間」というイメージはよくわかります。それに対して「追加の時間」という意味のアディショナルタイムは何だか当たり前すぎですね。

それはさておき、今回の中間テストでは中学生のロスタイムのもったいなさを感じてしまいました。それは試験時の時間配分ではなく、テスト勉強に費やす時間のことです。もちろん時間の使い方の上手な人もいますが、無駄と思える時間の使い方もちろちろで見られました。まず、学校の授業時間は塾にいる時間より圧倒的に多いのですからそこでぼんやりしては取り返すのが大変。中には「クラスで周りの席がうるさい友達ばかりだからついづられてしまうんだよね」と言い訳をする人がいましたが、それこそ「そんなの関係ない！」です。また、自分の学校のテスト範囲を持ち歩いていない、頭の中にも入っていない、だから塾に来てしょっちゅう範囲表を見ている人。それではどこから手を付けていいのか優先順位も決められません。そして、塾でやたらと漢字のドリルだけをやっている人。「そんなこと家でもできるから、わからないところを教えるよ」というと「明日学校に提出しなければならないのに、まだやってなかったから今ここでやらせて」という返事。思わずガーン…。

夏休み明けの期末テスト準備はロスタイムなしでいこう！